



医療法人山陽会 長門一ノ宮病院
4階病棟便り 「だんだん」第1号
山口県下関市形山みどり町17番35号
TEL:083-256-2011
FAX:083-256-9004
発行責任者 稲野 秀
令和5年1月1日発行



<http://www.nagatoichinomiya-hp.com/>

病棟だより「だんだん」発刊のご挨拶

児童思春期専門病棟担当医 稲野 靖枝

あけましておめでとうございます。

当院の児童思春期専門病棟の運用を開始して、早いもので4年が過ぎました。日々、子ども達の治療に関わっていく中で、何度も病棟便りの発刊を考えてきました。しかし、なかなか実行に移せないままに時間が過ぎ、この度、やっと第1号を発刊する事ができました。まずは、年2回程度から始め、徐々に発刊回数を増やして行ければと思っています。病院だよりは、「段段」(順を追ってゆっくりと変化していくさま)、「团团」(形の丸いさま)、「断断」(段状につながったもの、順を追って進むさま)などのことばがあり、子ども達が「段段」に、「断断」と成長してくれること、病棟で人間関係を「团团」のように丸く、うまく円滑にするスキルを身に付けてほしい、いろいろなことに「だんだん」(鳥取県西部地方の方言で「ありがとう」の意)の心をもってほしいと思い、「だんだん」と名付けました。

当院の児童思春期専門病棟には、様々なこころの状態から家庭や学校といった日常を過ごす場所で落ち着いて過ごせなくなってしまった子ども達が入院生活を送っています。

私達スタッフは、病棟は子ども達にとって成長の場であり、おこなっている事は、病気や障害の特性に配慮してはいるものの、基本は躰(しつけ)と教育であると考えています。少々言い方が乱暴かもしれませんが、人は動物です。動物は皆それぞれの場所で生きていくためのルール、いわゆる掟(おきて)にしたがって生きています。人間社会で生きていくには、人間のルールや掟に従わなくてははいけません。例を挙げれば、ペットは人間の社会で生きていくためのルールを教えられた(躰けられた)動物です。当然、人が人間社会で生きていくためには、障害や病気があっても、人間社会のルール(法律、規則、マナー)を知り、守らなくてははいけません。

病棟では、多くの職種の専門家が協力して、様々な治療プログラムを提供しています。治療プログラムは、専門的な視点や関わりを持ちつつも、ほとんどが、日常生活習慣の確立であったり、知っていて当たり前の法律や規則、道徳、マナーといったもの、効果的な対人関係のスキルなどを意識的に学んでもらうものです。

この病棟だより「だんだん」で、病棟での治療や取り組み、子ども達の様子、保護者の方への助言などを発信できたらと思っています。



病棟で子ども達に関わる部門(職種)の紹介をします！

◆診療部

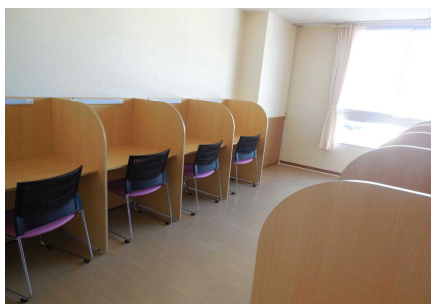
児童思春期専門病棟配置医 稲野 秀、稲野 靖枝

当院には4名の常勤精神科医と5名の非常勤精神科医がいます。児童思春期専門病棟には、常勤精神科医のうち2名の医師が配置されています。病棟では、主に診断の確定、検査のオーダーや検査結果の評価・判断、薬の処方を行っています。その他にも「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）」で定められた書類作成や、各種の診断書作成など、多岐にわたる仕事をしています。更に、児童思春期専門病棟では、多職種がかかわる治療プログラムの検討・決定などもおこなっています。外来と入院を含めると一人の医師が300人前後の患者様を受け持っています。できるだけ患者様のことは把握をするようにしていますが、一人の医師ができることは限られます。特に児童思春期専門病棟では、一人の子どもに対して、家族、学校関係者、支援者との関わりも深いため、そうした方々と連携をしています。また、治療プログラムでは、看護師、公認心理師、作業療法士も加わり、子どもの学び・育ちも含めた治療をしています。本人だけでなく、ご家族の方や他の関係者の方への援助もしていきたいと思っています。細かな部分まで行き届かない事もあるかとは思いますが、子ども達の回復、成長を、本人、ご家族と一緒に考えていきたいと思っていますので、ご理解、ご協力の程、お願い致します。

◆看護部門

病棟師長 上利 浩史

4階児童思春期病棟では、16名の看護師と2名の看護補助者の計18名のスタッフが毎日交替で勤務しています。病棟では、入院したみなさんの療養上のお世話や援助・生活指導等を行ないながら、健康状態の確認、生活環境の改善や生活リズムの調整を行っています。時には父親や母親のように又時には良き相談役としてみなさんに寄り添い、問題の解決や少しでも出来る事が増えていければと医師をはじめとした各関係部署と協力して、みんなで一緒に頑張っています。初めて入院される方や家族の方は不安や疑問等があると思いますが、わからないことや不安なことなど何でも聞いていただければと思います。病棟スタッフがていねいに説明・援助していきたいと思っています。よろしくお祈りします。



◆事務部門

事務部長 島村 和歌子

事務部は、男性4名・女性6名のスタッフで構成されています。他の病院のように総務課、医事課の区別がなく、スタッフ全員で色々な仕事に取り組んでいく体制になっています。病院の窓口として、縁の下の力持ちとして、他職種との橋渡しを念頭に、患者様を温かく迎え入れる電話対応を心がけています。入院時に、【病院案内】【限度額認定証】の説明等をしてはいますが、ご自宅に帰られたあと「これはどうしたらいいんだろう・・・?」と思うことがあると思います。その時は、電話でも病院に来院された時でも構いません。お気軽に事務所窓口の声掛けしていただければと思います。

◆薬剤部紹介

薬剤師 松岡 大輔

薬剤部では、児童の身体状態や年齢、薬の正しい用法・用量、入院時の持ち込み薬や他院受診時の処方薬との重複、薬同士の飲み合わせ等が適切かどうかを確認しながら調剤をしています。また、服用し易いように、1回の服用量ごとに1包化包装を行っています。児童精神科領域では、児童の精神症状に応じて、気分安定薬、抗不安薬、抗うつ薬、睡眠薬、抗精神病薬、ADHD治療薬等が処方されます。身体と精神の発達途上にある児童の薬物療法は、副作用の発現に注意し、学業・生活に支障をきたさない配慮が必要です。当院の薬剤師は児童が安心して薬物療法を続けることができるよう努めておりますので、お薬で悩んでいること、質問したいことがあれば薬局へご相談ください。

◆医療福祉部(精神保健福祉士部門・心理部門)

医療福祉部は、精神保健福祉士部門(ケースワーカー)と心理部門の二部門があり、病棟ではそれぞれが、子ども達やご家族、関係者に関わっています。

◆精神保健福祉士部門

病棟精神保健福祉士 碓田 張舞

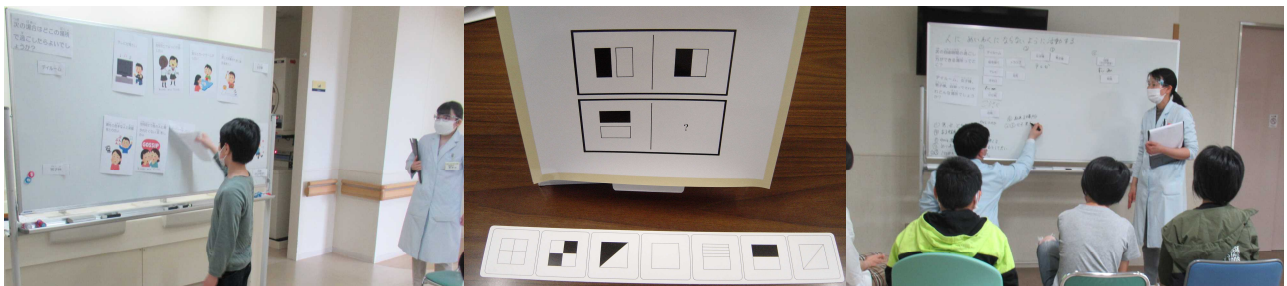
児童病棟では、女兒、男児別に2名の精神保健福祉士(PSW)が担当しています。

入院中や退院したあとに利用できるサービスのご紹介の他、地域の関係機関との連絡調整、入院中に学校へ登校するお子さんへの支援として、ご本人、ご家族の希望を確認しながら、学校との調整をしています。初めて病院から学校へ行くお子さんに関しては、一緒にバスに乗って学校に行く練習をしたり、バスカード購入の代行、子ども達の金銭管理訓練など安心して登校ができるようお手伝いをさせていただいています。また、ご家族も入院中や退院後の生活のことでご不安やご心配なことがあるかと思えます。お子さんのことや入院費など、些細なことでも構いませんので、気になる点がありましたら、ご相談ください。ご本人だけでなく、ご家族も安心していただけるよう支援していきます。

◆心理部門

病棟公認心理師 稲野 碧

当院の児童思春期病棟では、公認心理師はカウンセリングや心理検査、SST(ソーシャルスキルトレーニング)を含めた心理教育を通して、子ども達の治療に携わっています。日々の関わりの中で、トラブルの背景にある経緯、発達特性、あるいは本人ですら気付いていない困りごとにも着目してアプローチします。「変わりたい」「できることを増やしたい」「どう頑張ったらいいかわからない」と思う子ども達が、安心・安全に頑張れる環境を提供できるよう務めています。もちろん、ご本人だけでなく、ご家族の方も安心していただけるような関わりができればと思います。何かご不明な点、気になる点などありましたら、どうぞ気軽にお尋ねください。



◆作業療法士部門

作業療法士 渡邊 正寿

児童思春期病棟の作業療法は、2名の作業療法士（OTR）が担当しています。

活動は、作業療法士と病棟看護師が協力して、週に5日実施しています。運動や工作などの作業プログラムを通して、他者との協調性を学んだり、見通しを立てて行動することを身につけられるように工夫しています。また、競技や遊びの中で、ルールを守ることや、周りの人と自分が安全で安心な関わり方が持てるように練習できるように心がけています。また、子ども達が治療に前向きに取り組む動機づけになるように、頑張った人が参加できる特別なお楽しみ会なども企画しています。子ども達が季節行事や、お楽しみ会、お誕生日会などに参加している様子や、活動内容について、この紙面で、くわしくお伝えできればと思っています。

なお、作業療法について知りたいことがありましたら、お気軽にお尋ねください。



◆栄養部門

管理栄養士 古谷 友香

栄養部では、毎日の食事や日々のおやつを提供しています。食育という言葉があるように、食は生涯を通じて関わりあっていくものです。お子さんの健全な発育に欠かすことができないのはもちろん、嗜好による一喜一憂や特別な日のご馳走など、食は

心の豊かさにおいても大事であると考えています。当院では、食事がより楽しみとなれるよう、毎月お楽しみ献立を実施しています。カレーや唐揚げはもちろん、ハンバーガーや手巻き寿司など、外食を彷彿とさせるような献立を提供していますので、今後、この紙面をお借りしてお伝えしていきたいと思っております。ご本人、ご家族双方の良きアドバイザーとなれるよう、偏食や肥満、痩せなど、食事に付随したことで気になる点がありましたら、ぜひお気軽にご相談ください。



<編集後記>

新型コロナウイルス感染症も未だに収束を見せず、世界情勢も不安定な中ですが、今年は少しでも明るい出来事があることを祈るばかりです。まずは、この4階病棟だより「だんだん」第1号が無事に発刊できたことには安堵しています。子ども達にとって、当院での治療が少しでも良かったと思ってもらえるように、スタッフ一同、頑張っています。新型コロナウイルス感染症のため、面会や外出泊が難しいこともあり、病棟内の子ども達の様子がわからず、ご心配されている親御さんも多いことと思います。この病棟便りで子ども達の様子や、治療内容をお知らせすることで、ご家族が少しでも安心できるように、できるだけ、「だんだん」を多く発刊できるように頑張りたいと思います。

こんなこと知りたい、こんなこと教えてほしいなど、ご意見やご要望がありましたら、4階病棟スタッフにお声かけただけであればできる限りお答えしていきたいと思っております。すべてに対応できるわけではありませんが、まずはお声がけください。<Y.I.>